

2-2 東北地方とその周辺の地震活動（1994年11月～1995年4月） Recent Seismic Activity in and around the Tohoku District

仙台管区気象台

Sendai District Meteorological Observatory, JMA

1994年11月～1995年1月、1995年2月～4月の各3ヶ月間の震央分布図を第1図(a)と第1図(b)に示す。この期間、東北地方とその周辺で発生した有感地震は148回観測した。このうち主な地震活動を以下に挙げる。

1994年11月～1995年1月：この期間地震活動は活発であった。

12月18日20時07分福島県西部（M5.5）の地震により若松で震度4を観測するなど、東北地方中部から関東地方北部にかけて有感となった。この地震により、震源に近い下郷町では家屋の破損等の被害が発生した。同地域では、この地震に引き続き余震が多発した（本巻別稿参照）。

28日21時19分、八戸市の東方約180kmの三陸はるか沖で、M7.5（深さ0km）の地震が発生し、八戸で震度6、青森、むつ、盛岡で震度5を観測するなど、北海道から中部地方までの広い範囲で有感となった。震度6を観測した八戸市では、人的被害や建物の破損、電気・ガス・水道等のライフラインに大きな被害が発生した（本巻別稿参照）。

気象庁は、この地震を「平成6年（1994年）三陸はるか沖地震」と命名した。

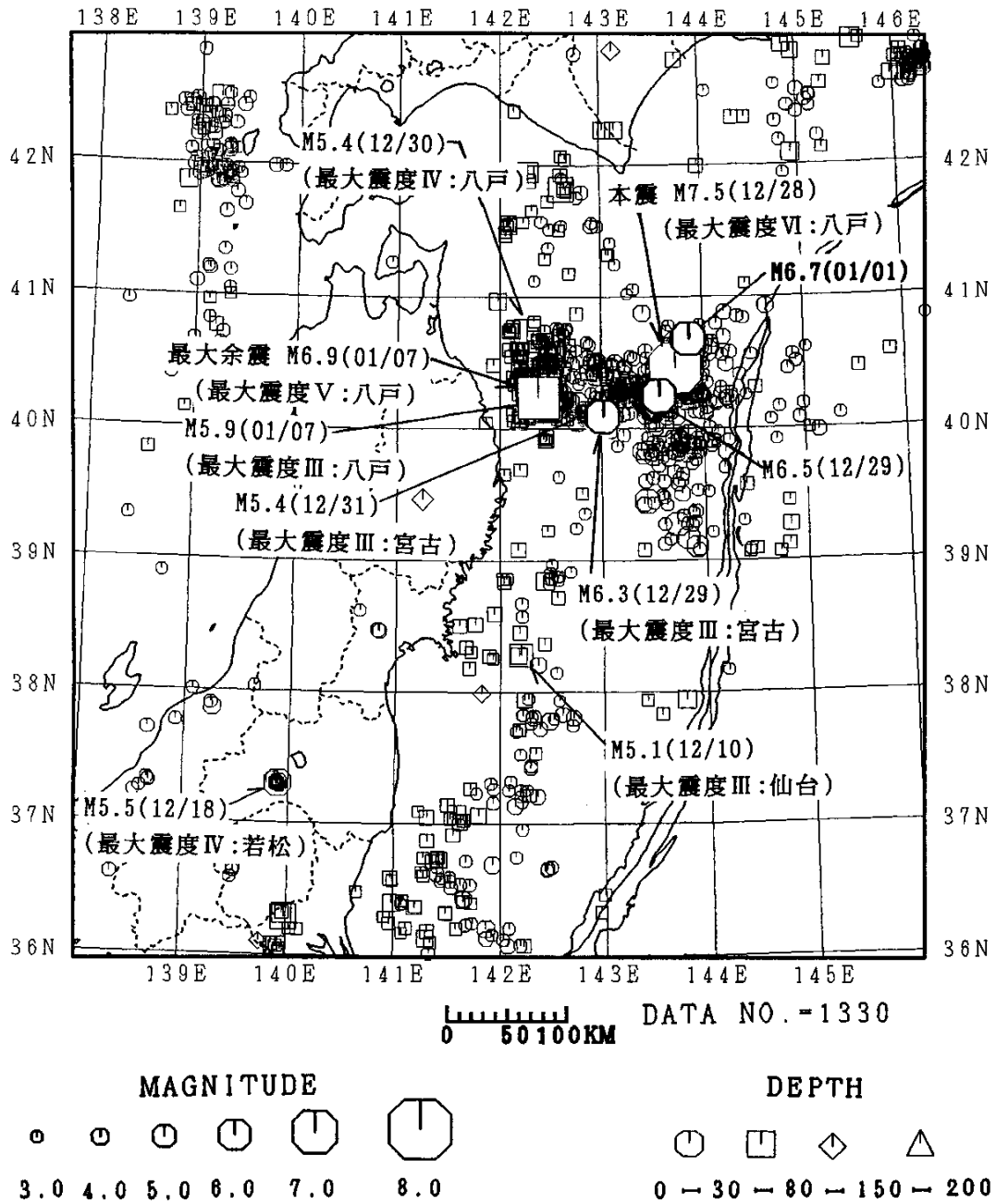
「三陸はるか沖地震」の余震は、岩手県沖から青森県東方沖までの広い範囲で多発し、1月7日07時37分には、これまでの最大余震となるM6.9の地震（岩手県沖：深さ50km）が発生した。この地震により八戸と盛岡で震度5を観測したほか、北海道から関東・北陸地方までの広い範囲で有感となった。本震で大きな被害を受けた八戸市では更に被害が拡大した。

1995年2月～4月：この期間特に地震活動の活発な地域はなかったが、「三陸はるか沖地震」の余震が引き続き発生した。

2月23日14時01分三陸はるか沖（M5.6）の地震では、青森・盛岡で震度2を観測した。管轄地域外の地震活動として、4月1日12時49分新潟県北部の地震（M6.0、深さ17km）により酒田、白河で震度3を観測したほか東北地方南部で有感となり、余震活動が活発であった。

また、特に顕著な地震活動ではなかったが、4月4日16時47分頃から4月30日にかけて、小名浜の東方約300km付近の日本海溝の東側（太平洋プレート上）を震源とする地震（最大規模M4.0）が多発した。

[震央分布図] 1994年11月1日~1995年1月31日 M \geq 3.0 h \leq 200km



(注) 図中のマークは管内で最大震度III以上及びM5以上の主な地震を示す。

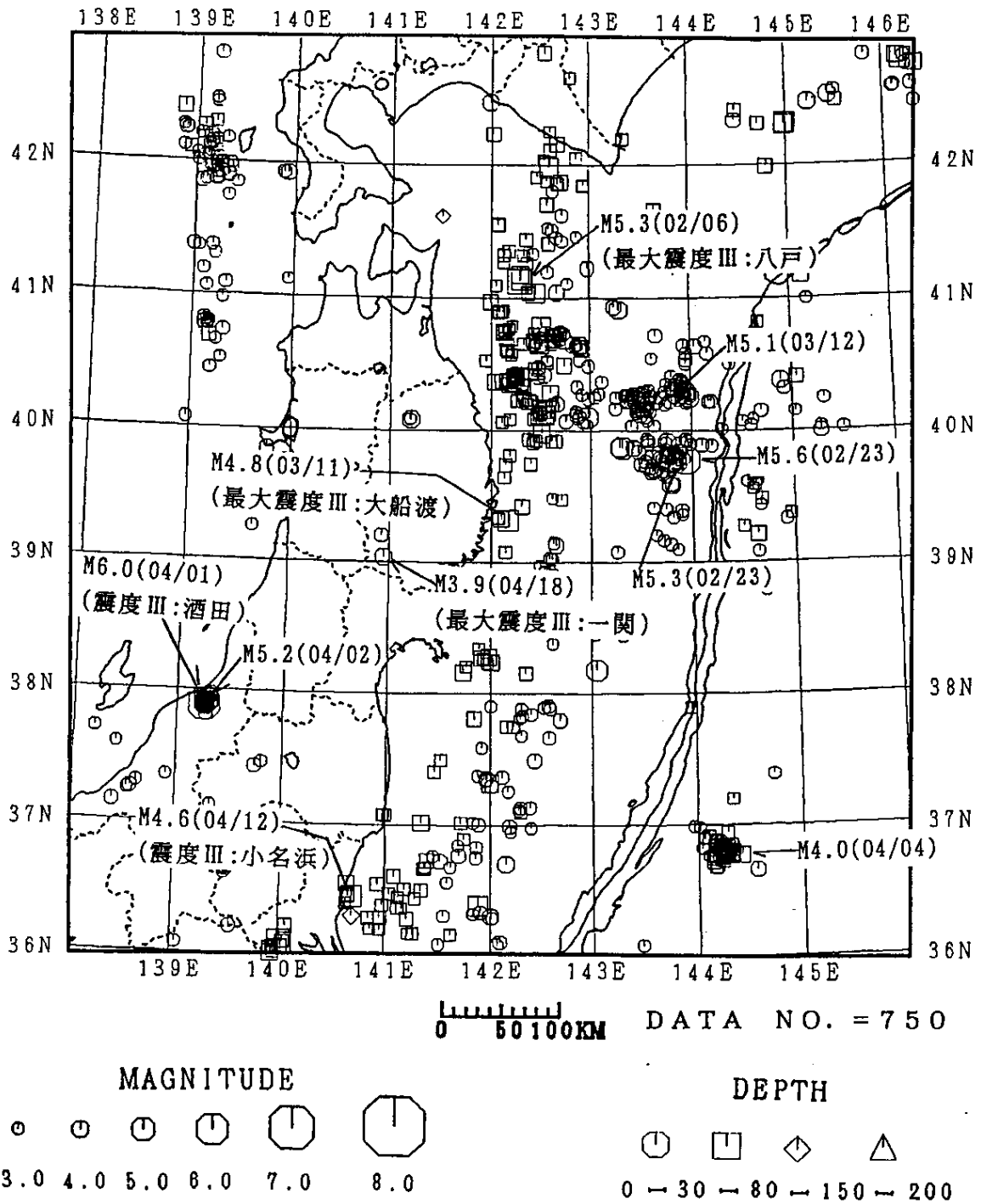
第1図 東北地方とその周辺で発生した地震の震央分布：

(a) 1994年11月~1995年1月 (M \geq 3.0, h \leq 200km)

Fig. 1 Epicentral distribution of earthquakes in and around Tohoku District :

(a) November, 1994-January, 1995 (M \geq 3.0, h \leq 200km)

[震央分布図] 1995年2月1日~4月30日 M \geq 3.0 h \leq 200km



(注) 図中のマークは管内で最大震度Ⅲ以上及びM5以上の主な地震を示す。

第1図 つづき (b) 1995年2月~4月 (M \geq 3.0, h \leq 200km)

Fig.1 (Continued) (b) February-April, 1995 (M \geq 3.0, h \leq 200km)